

AP事業の組織間連携と評価・改善サイクル

京都光華女子大学

酒井浩二

1 AP 事業内容

京都光華女子大学（以下、本学）では、以下の4つの領域に分けて、図1のPDCAサイクルを回して、図2の組織体制でAP事業を推進した。

領域A（全学共通の初年次必修科目の教育改革）

- ①多様なアクティブラーニング手法で教育改革
 - －クリッカー、ペアワーク、ワークシート作成など
- ②授業外学習時間を増やすための課題設定

- －レポート課題、情報活用課題、チャレンジ課題

領域B（授業課題等の学修支援や主体的学習の促進）

- ①学習ステーションで教職員、ピアサポーターが学習支援
 - －授業の内容や課題と授業外支援の連携
- ②ピアサポーターによる学習企画
 - －後輩学生の主体的学びの促進

領域C（学修態度・行動の調査とFD・個別指導の活用）

- ①アクティブラーナー水準の質問紙調査の開発－全学調査し結果を個別学生にフィードバック
- ②学修行動調査－学修の場所、内容、時間、効果の調査とFD活用

領域D（学修成果の可視化とFD・個別指導の活用）

- ①ループリックによる学修成果の評価－レポート、プレゼン、卒業研究、ディプロマなど
- ②学外テストの結果の分析とフィードバック－RST（リーディングスキルテスト）、PROGなど

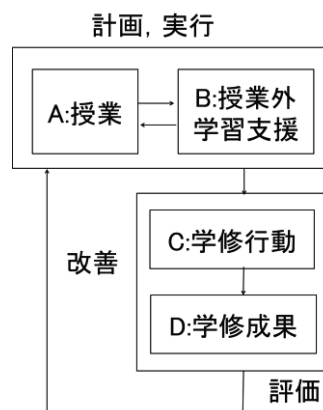


図1. 4領域によるPDCA体制

2 6年間の成果

6年間のAP事業を通じて得られた主な成果は、以下の通りである。

- ・初年次必修科目のアクティブラーニング化による学習習慣の形成、基礎学力の養成
- ・領域AからDの推進を通じてPDCAのサイクルの全学的な共通認識、実践
- ・個別学生の学修成果の可視化とフィードバック、学修支援の全学的な共通認識、実践
- ・学科間、部署間の連携、教職協働の強化
- ・平成26年度から30年度の5年間、毎年度の成果報告会と年次報告書の作成、配布
- ・AP事業実践の学会発表・紀要など計20件の発表
- ・AP最終年度：最終報告書、研究報告書、ピアサポーター報告書の3つを作成、配布予定

3 AP後の計画

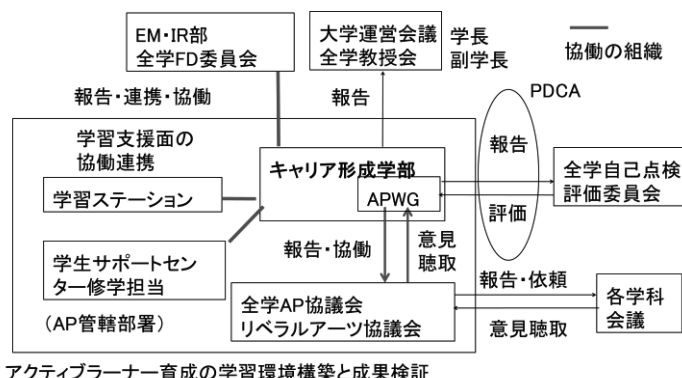
AP後の主な計画は、以下の通りである。

領域A：QFT（Question Formulation Technique）、ロイロノート促進

領域B：学習支援の質的向上

領域C：学修行動・態度の評価の体系化

領域D：学修成果の可視化方法のさらなる検討



アクティブラーナー育成の学習環境構築と成果検証

図2. AP事業推進の組織体制